先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ　vol.22 山田瑞季さん

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？　JOI 情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、お仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第 22 回目に登場いただくのは、株式会社いい生活のウェブ・ソリューション開発グループ 仲介ソリューション本部に所属し、開発をされている山田瑞季（やまだ・みずき）さんです。聞き手は JOI 情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。

株式会社いい生活の山田瑞季さん

不動産に特化したサービスの開発に携わる

山口　株式会社いい生活とはどんな会社なのか教えていただけませんか？
山田さん　いい生活は、不動産会社の業務効率化を支援するシステムやアプリケーションを提供する会社です。主に「仲介業務」と「管理業務」を行う不動産会社に対してサービスを提供しています。「仲介業務」とは、家を買いたい人や借りたい人と、物件をつなぐ役割のことです。「管理業務」は、すでに物件に住んでいる人やオーナーに対して、賃貸管理や建物管理などのサービスを提供します。いい生活では、「仲介業務」に 4 チーム、「管理業務」に対して 2 チームで動いています。

山口　ウェブ・ソリューション開発グループの仲介ソリューション本部に所属されているということで、山田さんはどんな業務を担当なさっているのですか？

山田さん　私は仲介会社向けのサービスを提供している部署に所属しています。不動産会社の多くは、ウェブサイトをつくって物件情報を掲載したり、お客さんを呼び込むための広告を作成したり、また実際に不動産屋に足を運んでくれた方のためにさらなる情報を提供するなど、成約までの対応が求められます。仲介ソリューション本部では、こうした仲介業務の各段階のプロセスに特化したサービスを開発・提供しています。

山口　山田さんは「いい生活 Square」というシステムを開発されているそうですね。

山田さん　はい。「いい生活 Square」は、実際に不動産会社に足を運んでくれたお客様に対して、さらに物件を紹介するための不動産の検索に特化したシステムです。

山口　画面で見えているものではなくて、裏側（バックエンド）の検索エンジンそのものや、インフラに関する業務をなさっているとか。

山田さん　そうですね。少し前の話になるのですが、サービスを動かす基盤として「AWS（Amazon Web Services）」を利用していました。AWS ではアカウントを作ることで、アプリケーションの土台をインターネット上で構築できる仕組みになっています。当時はその 1 つの AWS アカウントを、別のチームと共用で使っていたという背景がありました。しかし、共用アカウントでは「誰が管理しているのかが不明確になる」といった管理上の課題が出てきたため、アカウントを分けることになりました。私は、元々共用アカウント上で動いていたサービスを、個別のアカウントへ移行するという業務を担当しました。

山口　どの AWS サービスをどこの部署が使っているか、ひも解いていくのが大変そうな業務ですね。

山田さん　そうですね。他の部署のデータを壊さずに動かすという点で気を遣う作業でした。

山口　「AWS」は、Amazon が提供しているクラウドサービスで、最近のクラウドの中でも有名なものの一つと言えると思います。とはいえ、クラウドサービスそのものは、一般の人がすぐに直接触れるようなものではないかもしれません。そして「AWS」に限らず、クラウドサービスにはそれぞれ独自の特徴や“癖”のようなものがありますよね。山田さんは「AWS」の勉強はされていたのですか？

山田さん　実はその時に初めて触れました。大学も情報系ではなかったので。

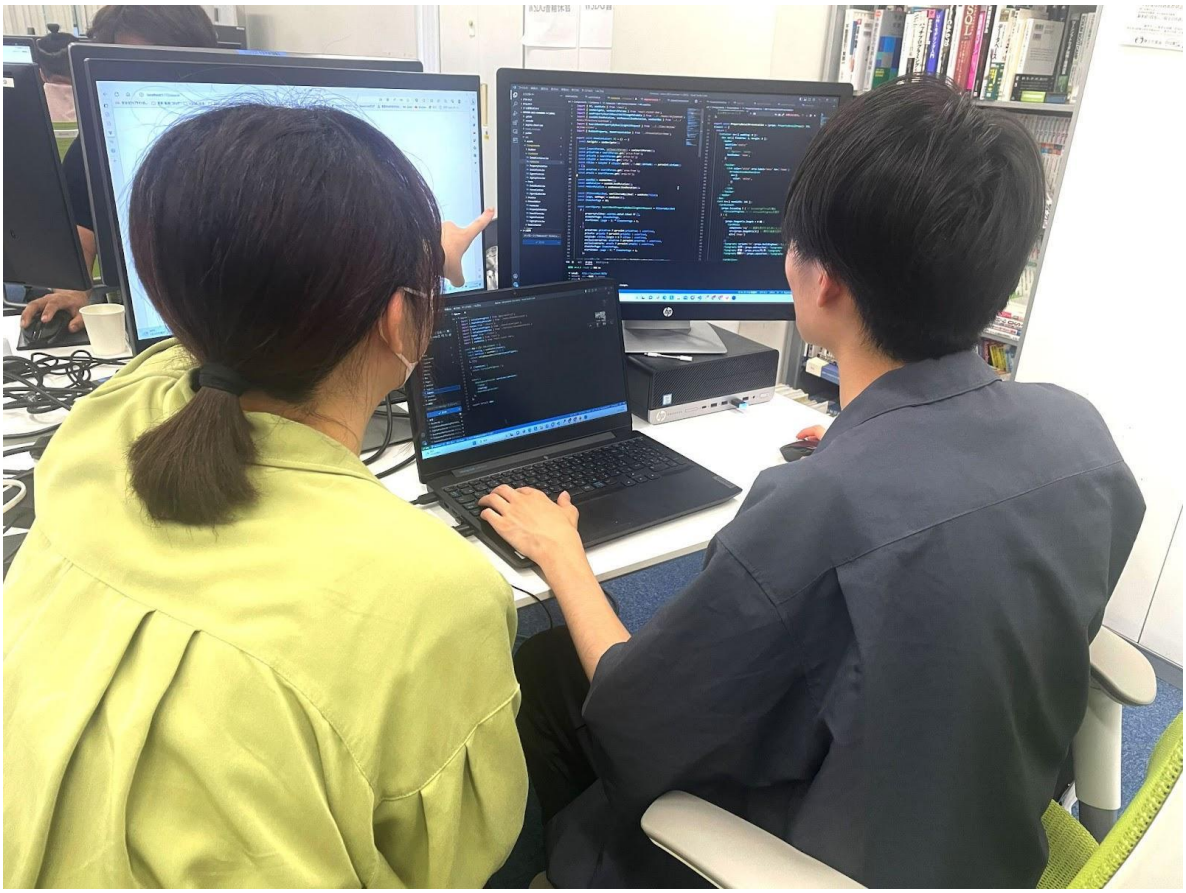
山口　どのように勉強したのですか？

山田さん　当時は、会社で使っているサービス名のほとんど聞いたことがなかったので、一つひとつ検索して調べたり、Web 記事を読んだりしていました。少しずつ慣れてきた頃に、「AWS」が公式で出しているガイドをじっくり読んで、一歩一歩勉強していきました。土日も調べたり、仕事が終わった後にわからなかったことを復習したりもしていましたね。

山口　最近もそんな感じで勉強をされていますか？

山田さん　最近はだいぶ慣れてきて、動かしながら予想がつくようになりました。でも仕事で使う「AWS」は限られているので、せっかくなら「AWS」が出している資格も取ろうかなと考えていて、公式のテキストなどを使って少しずつ勉強しています。

山口　写真をお預かりしているのですが、こちらは何をしているところですか？



山田さん　これはいい生活でサマーインターンを行っているのですが、その時の写真です。サマーインターンは、大学の夏休み期間に合わせて毎年開催している学生向けのプログラムです。数人の学生にチームを組んでもらい、短期間で開発に取り組んでもらうというのが大きなテーマになっています。このインターンの運営は、入社１年目の社員がメインで担当するのが恒例となっていて、私もその年、メンターとして１つのチームを担当しました。写真は、学生からわからないところの質問を受けて、一緒に考えながら、試行錯誤していたときのひとコマですね。

山口　サマーインターンでは、プログラミング以外の仕事もあるとか。

山田さん　そうですね。実際にプログラムを書くというよりも、学生チームの編成をどうするかといった企画面の調整や、技術講義の資料準備など、事前の準備が中心でした。インターンでは最初に技術に関する講義も行うので、そのための資料を用意したり、学生たちが開発に集中できるように、あらかじめテンプレートとなる開発環境を用意して配布したりと、準備の仕事がいろいろありました。

山口　仕事のやりがいはなんですか？

山田さん　新しい技術に触れたり、できることが増えたりするのが楽しいです。何もわからない初心者の状態で入社したので、知識を増やしていけることがすごく面白いと感じています。

山口　お仕事が休みの時のお写真もお預かりしています。こちらは美術館ですか？

山田さん　これは昨年末にドイツに旅行に行った時に訪れたドイツの美術館の写真です。あとは仕事で体が凝ってしまうので、ホットヨガなどに行ったりもしています。

文系と理系の境界に興味を持った学生時代

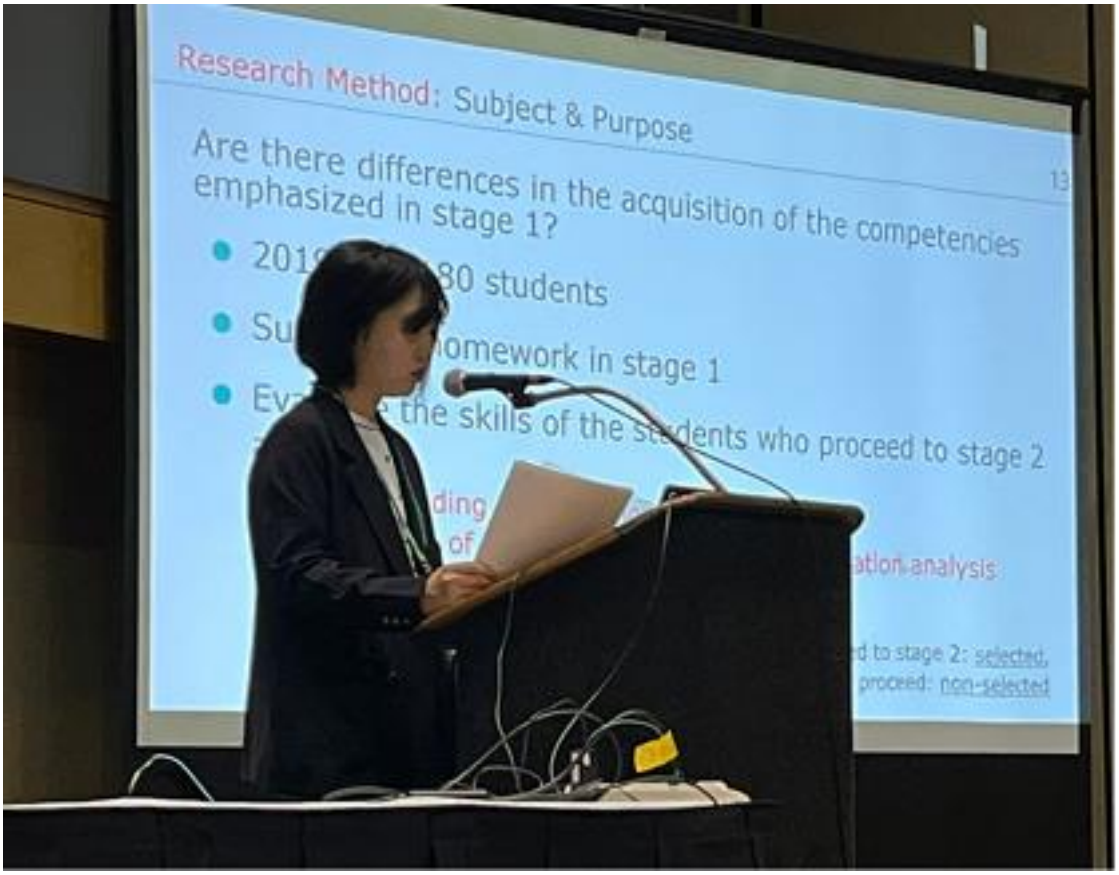
山口　山田さんは東京大学のご出身だそうですね。

山田さん　はい。でも理系ではなく、文系の文科二類に入学しました。東大では、大学２年生の時に３・４年生の学部を決める「進学選択」という制度があるのですが、そこで工学部システム創成学科へ進みました。もともと経済学部に行くつもりだったのですが、工学部でも経済学に近いことがやれるというのを知って、軽い気持ちで選んでみたという経緯です。

山口　大学院はそのまま東大に残られて、それまでとは異なる研究をされたのですよね。

山田さん　はい。学際情報学府・先端表現情報学コースに進みました。高校の「総合的な探究の時間」という授業で活用してもらえるように、探究テーマを決めるためのワークショップを開発し、その効果検証に取り組んでいました。私自身、文系と理系の境界領域に関心があるという点は一貫していて、なかでも「科学コミュニケーション」に特に興味を持って研究してきました。これは、科学や研究者の専門知を、一般の人々にどう伝え、どう受け取ってもらうかを考える比較的新しい分野です。

山口　最近注目されている分野ですよね。山田さんは学会などでも発表をされているそうですね。



山田さん　たまたま縁があって、アメリカの学会で発表させていただきました。大学院での研究発表では、実際に開発したワークショップを高校で実施してもらい、その体験をもとに評価アンケートを取り、効果を検証した研究の成果を発表しました。

山口　サイエンスカフェにも関わっていたとか。

山田さん　サイエンスカフェでは、発表する側というよりも、主に運営側として関わっていました。具体的には、研究者の方を招いて発表していただく場をつくる役割を担っていて、自分自身が口頭で発表する機会はありませんでした。このサイエンスカフェは毎月開催されていたため、「今月はこういう方をお招きして、こんな話題で盛り上がりました」といった開催報告をレポートとしてまとめる、といった活動を行っていました。

山口　大学進学の際に、東大の文科二類を選んだのはなぜですか？

山田さん　文科二類を選んだのは、もともと興味のある科目が文系寄りだったというのが大きな理由です。理系科目の中では、数学にはそれほど苦手意識がなかったのですが、理科には少しハードルを感じていて、入試で科目を選ぶ必要があることを考えると、やはり文系かなと思いました。また、文理のどちらかに明確に分かれるのではなく、その中間にあるような分野、どちらも広く学べるようなところに惹かれていました。当時は、そうした学びができる分野としてパッと思い浮かんだのが経済学だったというのが理由です。

山口　文科二類から工学部に進むことで、悩みはなかったですか？

山田さん　正直、進路については悩みましたね。学んでいる内容自体は文理の中間のようなものでしたが、実際に工学部に進むとなると、形式的には文系から理系へと舵を切ることになります。理系の場合、大学院への進学が自然な流れとして捉えられていて、周りには入学当初から「大学院に進むことが前提」という人も多かったです。そうなると、4 年で卒業するのか、それとも大学院まで進むのかで、進路や時間の使い方が大きく変わってくるので、その点でも悩みました。

山口　それでも工学部に進むことを決めたきっかけはありますか？

山田さん　なるようになるかなとも思ったのが理由です。システム創成学科では、理系の中では珍しく、4 年で卒業して就職する人も一定数いる学科でした。なので、「仮に 4 年で就職しても、ガッツリ後悔するようなことにはならないかな」と思っていて、あまり明確な理由があったというよりは、「とりあえず入ってからゆっくり考えればいいか」というスタンスでした。タイミングや環境などいろいろなものが重なって、結果的にはうまく今につながっているのかなと感じています。

キャリアイベントへの参加が、IT 企業に進むきっかけに

山口　プログラミング自体は大学から勉強なさったんですか。

山田さん　そうですね。東大では学部 1 年生の必修科目として「情報」の授業があり、その中でプログラミングにも触れる機会があります。中学・高校でも Excel を使って簡単な計算をする程度の授業はあったものの、本格的に「言語を使って何かをつくる」といった経験は大学が初めてでした。1 年生のときは正直なところ難しく感じてしまい、情報の最終試験で「情報法」か「プログラミング」のどちらかを選べたのですが、その時は「情報法」を選びました。　その後、プログラミングや IT に対してよりはっきりと興味を持つようになったのは、進路を考え始めた大学 2 年生の夏ごろでした。

山口　キャリアイベントなどに参加されたのですか？

山田さん　はい。女子学生を対象とした進路選択や就職に関するイベントで、説明会というよりも、気軽に話が聞けるカジュアルな雰囲気の会でした。その回のテーマが「IT 業界で活躍する女性社員の話」で、複数の企業から女性社員の方々が参加されていて、それぞれの仕事内容について紹介してくれました。文系出身の方も多くいて、「文系でも IT の世界で働けるんだ」と気づかされたのが大きかったです。

山口　どんなことを話されていましたか？

山田さん　「IT の仕事ってやっぱり数学ができないとダメなんですか？」という質問に、「全然使いません」と答えている方もいて。日々の業務ではチームでコミュニケーション

を取りながら、助け合って仕事を進めているという話をされていて、「数学が得意じゃなくても、文系でも IT の世界に入っていいんだ」と思えるようになりました。

山口　でも数学もそんなに嫌いではなかったのですよね。

山田さん　嫌いではなかったのですが、競技プログラミングのような、理系の人がやるような数学は大変そうだなと思っていて。

山口　小中高時代はいわゆる文系科目が好きでしたか？

山田さん　国語・英語・社会が好きでした。教科書を読む系の授業が割と好きでしたね。

山口　部活は何かされていましたか？

山田さん　バスケットボールを中高 6 年間やっていました。ポジションはセンターでした。

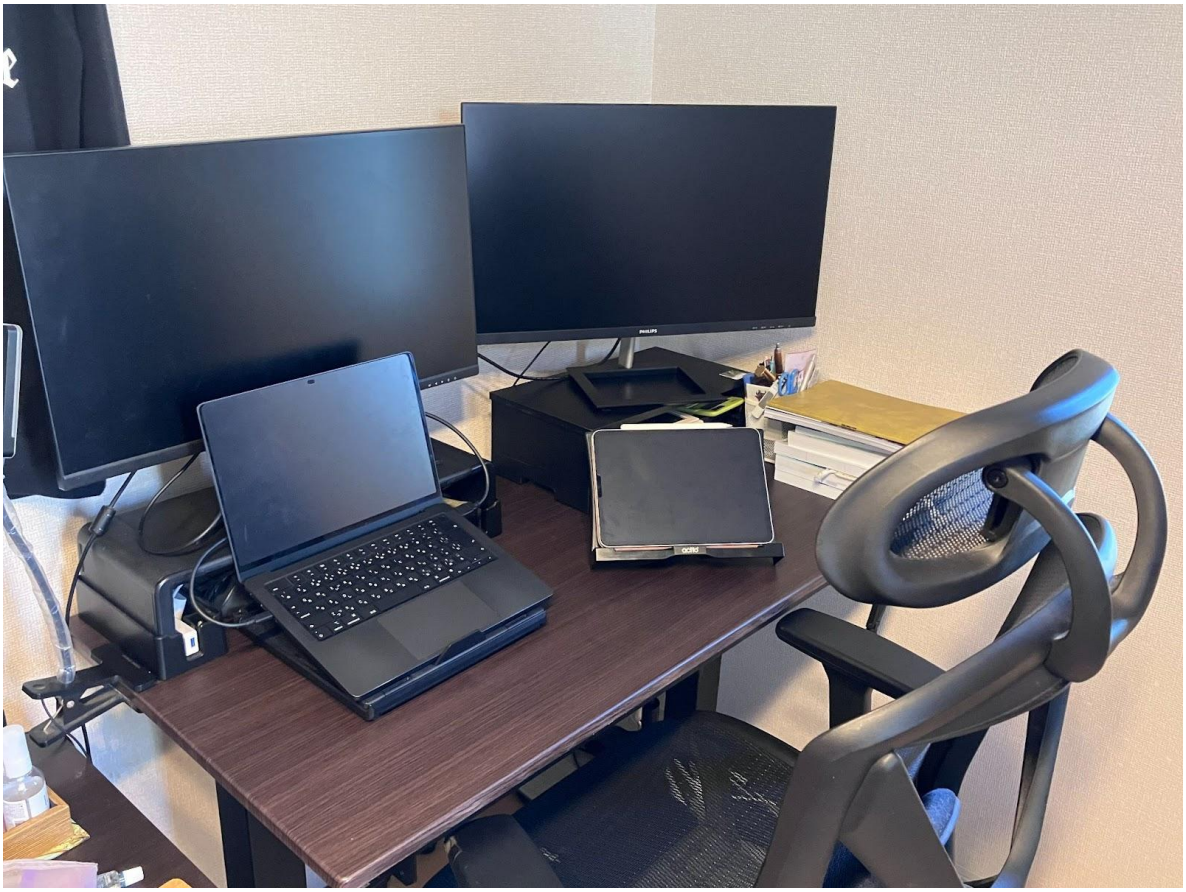
山口　小学生の頃の夢はなんですか？

山田さん　小学生や中学生の時は、本を読むのが好きだったので、文章を書く人など、文字に触れる仕事がいいなと思っていて、新聞記者にちょっと憧れていた時期がありましね。

山口　今のお仕事でも人の話を聞いて文章を書くという点では、共通する点があるように感じますよね。

山田さん　そうだと思います。人の話を聞くことはもちろん、新しい技術に触れる際には資料を読みこむ機会も多いので、文字を使うという意味では共通する部分もあるかなと思いますね。

山口　さて、もう 1 枚お写真を預かりしていて、リモート環境なかなかいいですね。



山田さん　２つのデスクトップと１台のパソコンの計３つで作業しています。

山口　仕事の目標はありますか？

山田さん　新しいことを知ったり、これまでできなかったことができるようになるのが面白いと感じているので、技術面で知っていることやできることを増やしていきたいです。

山口　最後に、未来のプログラマーへメッセージをお願いします。

山田さん　プログラミングが好きということで、その「プログラミングが大好き」という気持ちを貫いてほしいです。何かを好きになった経験や何かに夢中になった経験は、プログラミング以外の別のことに挑戦する時にも、自分の支えになってくれるかなと思います。

山口　本日はありがとうございました。

【インタビューを終えて】
私自身、東大の文科二類から工学部への進学ルートは知ってはいましたが、実際にそのルートを選ばれている方のお話をじっくり伺ったのは初めての経験でした。この選択は、私の思い込みでは後ろ向きな理由が多いのかと思い込んでいたのですが、全くそういうことがなく、「間違った思い込みだったなぁ」と、反省しました。山田さんの今のお仕事は、両方の教養学問が活かされているのも感じられ、いろいろな経験値がプラスに運ぶ、素敵なお話でした。（山口）

次回もお楽しみに。